

熱のVoice ①

エキスパートチーム編

北海道地域暖房株式会社

真駒内エネルギーセンター

※センターを代表して須摩耕一氏にインタビュー



後方左から、佐々木氏、大槻課長、
前方左から、清野氏、須摩所長

「冬場の暖房期間のために、夏の暑い時期に供給設備の整備作業や点検作業で汗を流し備える」

所属する部署の主な業務目標および内容を教えてください。

須摩 真駒内エネルギーセンターでは、1972年に開催された第11回冬季オリンピック札幌大会の選手村だった建物に、温熱供給を行なっています。業務としては運転監視のほか、熱交換器やボイラー等の保全・検査、受託しているお客さま設備の維持管理、検針などがあり、センター職員11名でほぼ全てを実施しています。

熱源には清掃工場の廃熱とボイラーがあり、状況によって切り替えながら供給しています。その中で安定供給を続けることが大きな目標です。

目標を達成するために心掛けていることなどを教えてください。

須摩 安定供給のためには、埋設導管の健全性の維持を特に重要視しています。例えば、弊社の供給熱源は、札幌市の駒岡清掃工場様の蒸気が四十数%を占めており、その導管(片道約4km)が特に大事なのですが、近年、このルートの伸縮接手の腐食

が進んできたので、計画的に交換を進めています。着工前は、できる限りご迷惑がかからないように、1年半前からルート上のお客さまにご説明・調整を行ない、ご理解と準備をいただくことに努めました。

お仕事の喜び、楽しさを教えてください。

須摩 私どもの業務は内容が多岐にわたり、多忙な職員が多いです。顧客対応で1日終わることもしばしばで、喜び、楽しさよりも先に大変な仕事という想いが強いのが本音です。でも、無事にやり遂げた時の充実感は大いいですね。夏場には、かなり



第11回冬季オリンピック札幌大会の記念碑と供給先の集合住宅

の暑さの中で、マンホール内の点検や、集合住宅の床下を何棟も這いずり回る点検などを行なう必要があって、本当に大変なのですが、そうした作業を行なうことで、冬場の暖房期間を無事に迎えられます。何事もなく暖房期間を終えることが出来た時の喜びは、非常に大きなものがあります。

今後の目標をお聞かせ下さい。

須摩 監視業務と保全業務の両方に長けた職員の育成も目標にしてきております。また、危険を伴う作業も多い職場なので、まず安全があって安定供給が成せるとの考えの下で、安定供給に努めるとともに、みんなが毎日怪我なく帰路につけるよう安全第一を徹底したいと考えています。

須摩 耕一氏 (Suma Kouichi) 略歴

1988年9月北海道地域暖房(株)入社。現在、真駒内エネルギーセンター所長。今年勤続30年を迎えた。特級ボイラー技士、1級管工事施工管理技士。趣味はウエイトトレーニング、自転車、美味しいビール探し。最近「IPAビール」にハマり中。

(取材：中田 貞志 広報委員)